

◎人物に関する事項

■魚住完治うおすみかんじ

- ・ 一八二八（文政十二）年 加古郡野寺村の里正（庄屋）の家に生まれる。
- ・ 一八七二（明治五）年 山田川疏水実現にむけて、神出の藤本増右衛門の協力により、疏水水路の測量を行う。
- ・ 一八七八（明治十二）年 野寺村ほか五カ村の代表者と「新流堀割之義願」を兵庫県令森岡昌純に申請する。
- ・ 一八八八（明治二十一年）年 淡河川疏水の工事の際に、指導監督者として貢献する。
- ・ 魚住逸治は、完治の甥にあたる。

■北條直正ほうじょうなおまさ

- ・ 一八三六（天保七）年 播州揖保郡林田藩（現在の姫路市）に生まれる。
- ・ 一八七九（明治十二）年 郡制施行の際に初代加古郡長に就任する。魚住完治らの懇願により、その必要性を認め、山田川疏水を推進する。魚住逸治を郡書記に任命する。

一八八〇（明治十三）年 殖産興業の政策に沿った葡萄園を印南新村に誘致し、その用地の買収代価で滞納中の地租代入を図る。

一八八二（明治十五）年 県勧業課に配置換えされる。同年、県会議員に当選する。

一八九四（明治二十七）年 母里村長に就任する。

一九〇六（明治三十九）年 母里村長を退職する。退職後、『母里村難恢復史略』をまとめる。



田辺義三郎

たなべぎさぶろう

一八五八（安政五）年 山口県に生まれる。

一八七三（明治六）年 ドイツに留学、ハノーバー府工芸大学にて土木工学を修め、帰国後は創設間もない内務省土木局の指導者の一人として活躍した。

一八八四（明治十七）年 琵琶湖疏水工事の監督を行う。

一八八六（明治十九）年 山田川疏水の計画にあたつ

て現地を訪れ、水源を淡河川に変更する案を提唱した。

ヘンリー・スペンサー・パーマー

一八三八（天保九）年 インド・ベンガルに生まれる。

一八五六（安政三）年 英国王立ウーリッチ士官学校に入学、測量、道路、橋、港湾、水路、水道建設、築城、天文、気象、観測などを学ぶ。

一八八一（明治十四）年 ビクトリア女王の孫の随員として来日する。

一八八二（明治十五）年 内務省神奈川県付顧問技師として横浜水道報告書を作成する。

一八八五（明治十八）年 横浜水道監督工師として来日する。

一八八七（明治二十）年 疏水水路の实地視察に同行し、プロジェクトの主要な土木工事部門に関する意見が求められ、噴水工の材料としてマイルドスチールの使用を提案した。

一八八八（明治二十一年）年 東京及び神戸水道計画、横浜築湾計画を作成する。